

自殺企図患者へのフォローアップ効果に影響する因子と支援策の検討

1) 研究の目的

我が国の自殺者数は毎年 2 万人を超え、自殺死亡率(人口 10 万人当たりの自殺者数)は先進国(G7)の中で最も高く、自殺対策は重要な課題となっています。また、自殺未遂は自殺の最大の危険因子の一つとされ、自殺未遂で治療を受けている方へフォローアップ介入を行うことが対策の一つとなっています。しかし、現在までに介入の効果に影響する因子は明らかにされていません。当院では平成 22 年度よりフォローアップ介入を行っておりますが、本研究ではフォローアップ効果と影響する因子を調査し、支援の改善点を検討することを目的としています。

入院期間が短かったり治療上の理由で事業への参加の応否についての説明ができなかったり、事業への同意が得られない方も少なくありませんでした。これらの患者様に前向きでの介入・観察は行っていませんが、当院外来で通常の治療を継続しているものもいることから、限られた範囲ですが、後ろ向きにその予後を調査することは可能です。そこで、当該事業に組み入れられなかった方についてカルテ調査を行い、再企図について当該事業参加者と比較することで、事業の効果を計測します。

2) 研究対象者

当院で実施されている自殺ハイリスク者フォローアップ介入事業の平成 22 年度から令和 4 年度までの参加者の方々、当該事業の対象であった方の中で、当該事業への説明が行えなかった方(不参加)、事業の説明を受けたが同意が得られなかった方(拒否)を対象とします。ただし、新たなデータの採取は行わず、後ろ向き研究とします。

3) 研究期間

倫理委員会承諾後～令和 9 年 3 月 31 日

4) 研究方法

平成 22 年度より当院にて実施されている自殺ハイリスク者へのフォローアップ介入事業対象者のケース・マネジメント資料(平成 22 年度～令和 4 年度)、診療録を後ろ向きに調査します。この研究に使用する情報として、事業参加時のケース・マネジメント資料から以下の情報を使用させていただきますが、情報は匿名化され個人が特定されることはありません。匿名化されたデータは研究機関の研究責任者によって施錠・保管されます。電子媒体については安全を確認された USB メモリを用いて移動し、移動後は USB メモリからデータを速やかに消去します。また、情報を第三者へ提供することはありません。

項目：属性、自殺企図歴、ケース・マネジメント時の状況、評価[MINI、BPRS、Sigh-D (Hamilton 抑うつ尺度)、SIGMA (MADRS)、コロンビア自殺リスク評価尺度、TCI、QIDS-R、TAC-24、positive 感情尺度、Joiner 対人関係・衝動評価尺度、福岡社会的サポート評価票 (BISSEN)、JART、社会的再適応評価尺度 (SRRS)、PSS]

5) 試料・情報等の管理について責任を有する者

茨城県立こころの医療センター 小川貴史

6) 研究機関名および研究責任者名

筑波大学医学医療系 災害・地域精神医学(茨城県立こころの医療センター) 太刀川弘和

7) 個人情報に関する利用目的

本研究で取り扱う個人情報は、本研究の解析目的のみに使用し、それ以外には用いません。また、研究結果を学会・論文発表する際には個人を該当できる情報は用いません。

8) 本研究への参加を希望されない場合

ご本人やご家族の方が、本研究への参加を希望されず、情報の利用または公表の停止を希望される場合には、下記の問い合わせ先にご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合などご希望に添えない場合もございます。また、希望されないことによって将来にわたって本研究に関わる病院における診療に不利益を被ることはありません。

9) 問い合わせ連絡先

茨城県立こころの医療センター：〒309-1717 茨城県笠間市旭町 654 太刀川弘和(精神科医師)